

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	12-142	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Maternal alcohol use and sudden infant death syndrome and infant mortality excluding SIDS. 母親のアルコール利用と乳幼児突然死症候群、SIDS を除く乳児死亡		
執筆者		
O'Leary CM, Jacoby PJ, Bartu A, D'Antoine H, Bower C.		
掲載誌		
Pediatrics. 2013 Mar;131(3):e770-8.		
キーワード		
アルコール使用障害、乳幼児突然死症候群、乳児死亡		
要 旨		
目的： 近年、乳児死亡率（生後 1 年以内の死亡）は改善されていない。本研究は母親のアルコール使用の障害と乳幼児突然死症候群(SIDS)および SIDS に分類されない乳児死亡率との関連を、集団ベースの健康データと死亡データをリンクすることで検討した。		
方法： 曝露群の母親は国際疾病分類第 9/10 回改訂のアルコール診断、アルコール使用障害の簡易測定、健康、精神的健康、薬物・アルコールデータ(1983 年-2005 年)を用いることで同定された。比較対象となるアルコール診断のない母親は曝露群の母親と、母親の年齢、母親の人種、子供の出生年で頻度マッチングされた。全ての出生した子供は Midwives Notification System によって記録され、曝露群 (n=21841)、比較群 (n=56054) であった。SIDS のケース (n=303) と SIDS を除く乳児死亡 (n=598) は、Western Australian Mortality Register とのリンケージを通して同定された。分析は Cox 回帰によって実施され、結果は調整ハザード比 (aHRs) および 95%信頼区間 (CI) で示された。		
結果： 母親のアルコール診断が妊娠中 (aHR:6.92、95%CI :4.02-11.90)、妊娠 1 年以内 (aHR:8.61、95%CI : 5.04-14.69) のとき SIDS のリスクが最も高かった。妊娠中にアルコール診断の記録のあった場合、乳児死亡 (SIDS 除く) のリスクは 2 倍以上になった (aHR:2.35、95%CI : 1.45-3.83)。母親のアルコール使用障害は SIDS に少なくとも 16.41% (95%CI: 9.73%-23.69%)、SIDS に分類されない乳児死亡の 3.40% (95%CI: 2.28%-4.67%) 寄与していた。		
結論： 母親のアルコール使用障害は SIDS と SIDS を除く乳児死亡の有意な危険因子である。		